



生徒指導だより



令和6年6月12日
岐阜北高等学校生徒指導部

1. 岐阜北高校の学生であるという自覚を持って、自分たちの行動を顧みてください

自転車の運転、公共の場におけるマナーについて、度々注意喚起を Classi や生徒指導機関紙 Kashiwa を通じて発信しておりますが、一般の方々から、北高生のマナーについてのご意見や苦情が後を絶ちません。

学校は地域社会との共存なくしては成り立ちません。歩行者も、車も、自転車も、ルールを守ることで安全が成り立っています。事故は被害者だけでなく、加害者も不幸になってしまうからこそ、絶対に起こしてはいけません。

また、本校生徒の言動は非常に目に留まりやすくなっており、以下に該当する行為やマナー違反が度々目撃され、近隣の方々には不快な思いや不便さ、憤りを感じておられます。

《実際の苦情内容の例》

①自転車の走行マナーについて

- ・自転車で2~3人で話をしながら**並走**する
- ・**人と接触しても何も言わずにその場を走り去る**
- ・**スピードの出しすぎ**で、周りに危険が及ぶ

②公共の場でのマナーについて

- ・「飲食のご利用のみ」といったルールがあるショッピングモールのフードコートにて、参考書をテーブルの上一面に広げて勉強している
- ・周りの迷惑を顧みず、スマホゲーム等をしながら大声で騒ぐ

③近隣店舗でのマナーについて

- ・駐車場にて、車の駐車スペースに自転車を無造作に駐輪するため、他のお客様の車が駐車できない
- ・駐車場の縁石に座り込んで飲食をしているため、他のお客様の車が駐車できない
- ・飲食できるスペースで、大声でゲームなどをして長時間居座る



※柳ヶ瀬 劇場通り北商店街内の防犯カメラで高校生の登下校の様子を確認してきました。自転車の並走、過度なスピードが本当に危険です。



「命を守る訓練」後に注意喚起しました。もし自分が逆の立場で、上記の行動により迷惑を被る、不快な思いをする、もしくは生活が脅かされるとしたらどう感じますか？

車両が通行禁止になっている西柳ヶ瀬から劇場通り北商店街にかけてのアーケード下、高校生の自転車走行は本当に危ない、本当に危険です。事故が頻繁に起きてもおかしくない状況、いつか大きな事故が起きるのではないかと危惧しています。自転車は軽車両に分類されているため、法定速度自体がありません。しかし、このアーケード街内は車両の通行が禁止です。つまり、歩行者が優先ということ。軽車両である自転車の走行は禁じられてはいますが、スピードのだし過ぎにより、歩行者に危険が及ぶと安全運転義務違反にあたる可能性が高く、危険回避ために徐行義務があります。歩行者の平均速度は2~6km/hぐらいと言われていいますので、歩行者の安全に配慮すると自転車の速度も同じくらいが望ましいわけです。かりに歩行者と接触事故を起こした場合は、例外ケースを除いて、100%自転車側が過失を負うことになります。

2. 蝶の羽ばたきが地球の裏側で竜巻を引き起こすという比喻 “バタフライ効果 (Butterfly Effect)”



“Butterfly Effect” 聞いたことがありますか？ Google 先生によると「通常なら無視できると思われるような極めて小さな差が、やがては無視できない大きな差となる現象のことを指す」とのこと。これを主体的に解釈すると、「一人ひとりが現実世界を好転させる可能性を持っている」、すなわち「北高生一人ひとりの小さな行動であっても、さまざまな要因が複雑に絡み合っ、世の中を揺り動かす可能性がある」と言えます。

これは行き先が不透明で予測困難な VUCA の時代、未来を生き抜くために求められる根本的な個人スキル (非認知スキル) ではないかと私は思っています。いつ、どこで、何が起きるのか、それは誰にもわかりません。だからと言って、投げやりになってはいずれ行き詰まるだけです。困難に対して活路を見出すためにも、“Butterfly Effect” のような概念から導き出される「主体性や可能性」に焦点を当てるべき時代なのでしょうね。

ご意見やご指摘がすべて本校生徒だけの問題とは思っていませんし、現場を実際に見ていても多くの人たちのマナーは良くありません。でも、心ある北高生が少しでも減速して走行してくれたら、歩行者に配慮しながら走行してくれたら、これらが時間の経過とともに他の人を巻き込む大きな変化になり、今よりは危険度が低くなるのではないのでしょうか。「私には関係ない」という他人事ではなく、当事者意識を持つことから世の中は変わるはずですよ。

あなたは どう 思いますか？